

# 希望・勇気・忍耐

第3号 令和4年6月1日 担当：江村麻里子

## 【6月（水無月）行事予定】 月訓『誠実』

1	水		16	木	歯科検診（1～4 限） 現況報告会準備（美化清掃）
2	木	実力診断テスト（1～3 限）	17	金	現況報告会（45 分×4 限） 公開授業（5 限：一部クラス）
3	金		18	土	受験対策講座④
4	土		19	日	
5	日	第 1 回実用英語技能検定（一次）	20	月	全校朝礼
6	月		21	火	常任委員会
7	火	体育大会学年予行（3～4 限）[雨天中止]	22	水	歯科検診予備日
8	水	体育大会準備（1～4 限）[該当者以外授業] 体育大会予行（5～6 限）[雨天 6/9]	23	木	
9	木	体育大会[雨天 6/10]・各自弁当持参	24	金	情報技術検定
10	金	体育大会予備日・各自弁当持参	25	土	
11	土		26	日	全商簿記実務検定試験
12	日		27	月	1 学期期末試験①
13	月	チャレンジ0週	28	火	1 学期期末試験②
14	火	執行部合同会	29	水	1 学期期末試験③
15	水		30	木	1 学期期末試験④
			7/1	金	1 学期期末試験⑤

中間試験が終わり、答案もすべて返却されたことと思います。結果はどうでしたか？高校生活も2年目になり、気が緩みがちな時期です。もしかしたら昨年度に比べて点数が下がった人もいないでしょうか。1学期の成績が確定する期末試験まであと3週間ほど。来週は体育大会もあり、残された授業時数は決して多くはありません。特に中間試験の結果が思わしくなかった人は、挽回のチャンスです。日々の授業と課題に真剣に向き合い、成績向上に努めましょう。

### ～6月23日が何の日か知っていますか？～

6月23日は沖縄の『慰霊の日』です。第二次世界大戦中の1945年4月1日、アメリカ軍が沖縄本島に上陸し、沖縄戦が始まりました。戦時中は日本各地で空襲があり、広島・長崎への原爆投下もありましたが、唯一地上戦が繰り広げられたのが沖縄でした。沖縄県では旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる6月23日を慰霊の日とし、平和祈念公園をはじめ各地で戦没者追悼式が開かれ、多くの人々が亡くなった方々のご冥福と世界恒久平和を祈ります。

沖縄戦にはアメリカ兵約 54 万人が参加し、そのうちの 18 万 3000 人が実際に上陸したとされています。日本兵は約 11 万人で、そのうちの 2 万数千人は沖縄で集めた防衛隊や学徒隊だったそうです。今の高校生にあたる若者も数多く動員されました。日常生活の場が戦場になり、戦いに巻き込まれていきました。

兵士の数からしても、力の差は明確ですが、当時の日本軍としては沖縄戦を長引かせ、日本本土への上陸を遅らせるために沖縄戦を続けたと言われています。そのため、右の図にもあるように犠牲者が増えてしまったのです。アメリカ軍上陸からの約 3 ヶ月で、沖縄県民の約 4 人に 1 人が命を奪われました。

慰霊の日に県が主催する戦没者追悼式が開かれる平和祈念公園は最後の激戦地であった摩文仁にあります。そこで壮絶な戦闘が起こったとは思えないほど綺麗な景色が広がる場所です。ここにある「平和の礎<sup>いしじ</sup>」には国籍、軍人・民間人を問わず沖縄戦などで亡くなった約 24 万人の人々の名前が刻まれています。

終戦から今年で 72 年。今でも沖縄各地に戦争の爪痕が残っています。今年 5 月 15 日には戦後、アメリカの統治下にあった沖縄が本土に復帰して 50 年を迎えました。依然として米軍基地が多く残る沖縄は本当に平和と言えるのでしょうか。

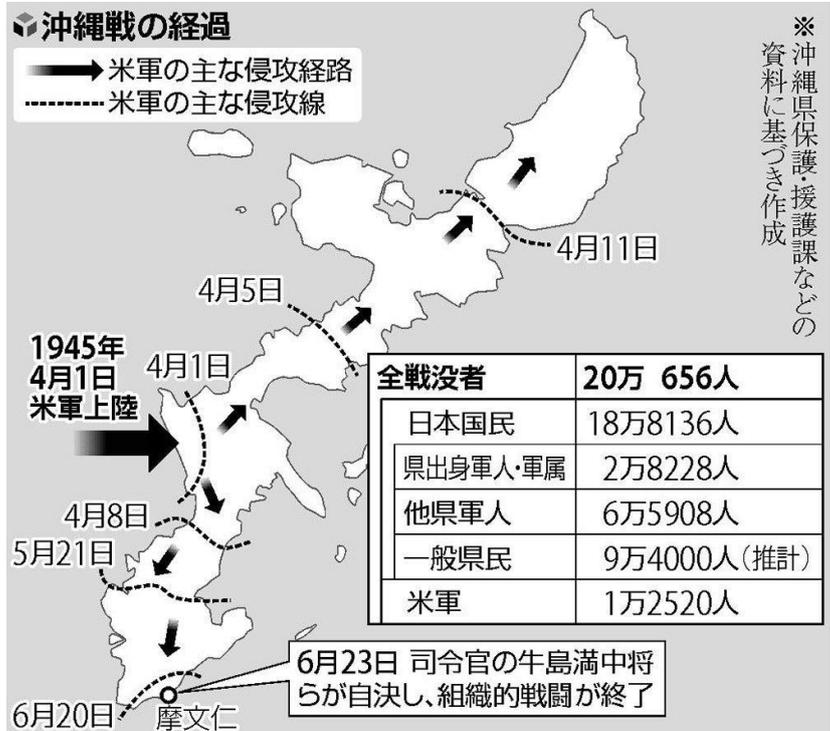
ロシアによるウクライナの軍事侵攻が起こり、ウクライナの様子が日々ニュース等で流れています。過去の出来事、または遠い世界の出来事に思っていた戦争がより身近なところにあるように感じられるようになった気がします。今年の慰霊の日は、あらためて「平和」について考えるきっかけにしませんか。

参考：内閣府、沖縄県、NHK、読売新聞、琉球新報（図は読売新聞より）

【修学旅行に当たって】

先日、修学旅行の行先アンケートを取りました。沖縄コース・広島関西コースの 2 つからの選択です。修学旅行の目的の一つとして平和学習があります。日本は今から約 80 年前に大きな戦争を経験しています。その戦争で広島には人類史上初めて原子爆弾が投下され、約 12 万人がそれにより命を落としています。また沖縄はアメリカと唯一の地上戦が行われた場所として知られ、民間人を含め約 18 万人がその時の戦闘でなくなっています。現在のウクライナ情勢をみてもわかるように、いまだに戦争はなくならず世界中が不安に包まれています。そんな今だからこそ、日本で行われた戦争の惨状を君たちは知っておくべきです。ぜひ現地に行って目で耳で心でその様子を感じ取ってきてください。そして平和の尊さを実感してください。

※沖縄県保護・援護課などの資料に基づき作成



(柳瀬)